

YA

2006
No.14



これは世につたえておきたい
かたっておきたい
わが胸の底から真実のおもい
人生幾山河のめぐりあい
あの日の風やひかり そして空のひとひら
哀歎のかがり火に生きた幾年月の路
「自分史図書館」はその証言館です。



○私の稀覯本ノート その14

椎窓 猛

●「付録」と「砂漠の町とサフラン酒」～山福さん親子の本について

山福康政さんの俳句と絵の本「付録」は昭和54年(1979)の発行。

山福さん2歳、父母と昭和5年九州若松へ流れた日からはじまる自分史絵本である。関門海峡冬景色、母の眼には涙、2歳のボクはねんねにおんぶされてバンザイ！頁をめくるとに北九州の変遷もうかがわれてくる笑いとペースにまぶされたユニークなものがあり。山福さんは「北九州のある片隅のふらふら人間雑記帳」と帯にしたためられているが、その詩と真実には胸を打たれる。山福さん逝かれて幾年月か。

去る1月19日、私の村が主催する「世界子ども愛樹祭コンクール」選考会に上京の折、娘さんの朱実さんが「砂漠の町とサフラン酒」を出版したことを知り、祝意を表したいと考え、選考会場までおいで願った。

木版画の絵本で、小川未明の童話を絵本にしたもので、これまたユニーク。親の血をひく絵本画家と感服しながら亡き山福さんをしのぶ機会ともなったのである。(自分史図書館長)

野 趣 畑 春吉
一里石花菜明りに暮れ残る
みの虫の米つぶほどのあたたかさ
二の声はうき島あたり鳥渡る
どんど火や明治へ話さかのぼる
幸若の舞衣干しあり冬菜畑
からたちの花が匂わす子守うた
秋風の駅出て一人一人のみち
―春吉句集―

○春吉句集

畑春吉さんは明治32年、山門郡大和町の生まれ。さしてくわしい年譜は記されていないが、俳句、短歌に親しみ、昭和49年明治神宮秋の大祭献詠歌に入選。

雨ほしと思ひつゝ 蔭く大根の種
みずみずし土におちつく

昭和56年12月永眠。塩塚彪さんが発行人となり、東兄弟印刷で刊行。

筑後の野趣を句や歌に詠じた人として記憶にとどめたく24年ほど前に発刊の句集をここにとりあげた。



○徐福論

いまを生きる伝説 達 志保

柳川在の二紀会画家北原悌二郎先生も昨今、「徐福伝説」をテーマに描かれているとのことだが、百薬不老不死の薬を求め、はるか2200年のむかし、秦の始皇帝時代、わが国へ渡ってきたというおぼろな伝説は、今に興味関心を抱かされる。

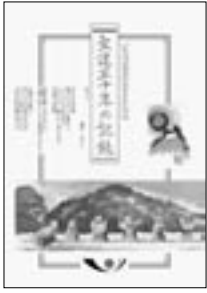
この伝説はわが国各地に残っているらしいが、身近かなところでは、八女市山内の「童男山ふすべ」に残る物語が有名である。

はなしは、東へ東へと不老不死の薬を求め渡ってきた徐福が息たえだえでこの地で倒れているのを火を焚き介抱したら息を吹き返し、この地の人々の暖かい「情」に深く礼をのべて亡くなったとの由来が記述されている。

童男山ふすべ

八女に残る徐福伝説は、山内の童男山古墳に残り、江戸時代の文献に出てきます。現在では、「童男山ふすべ」と云う行事が毎年1月20日に、川崎小学校の児童によって行われています。古墳の周辺を清掃し、枯れ枝や落ち葉に点火、徐福と童男山ふすべの由来を物語りにした紙芝居を上演します。

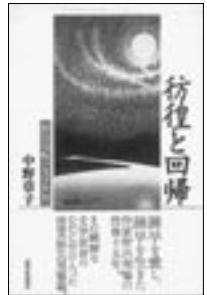
○ 文連五十周年の記録
八女文化連盟



○ 九州歌碑の山旅
井上 優



○ 彷徨と回帰
中野 章子



○ 中国と私、その自分史

木村 連

「黄櫨」の会員野尻展郷さんの寄贈本である。

サブ・タイトルに、「一兵卒の絵とメモリーによる、ひとつの昭和史」とある。目次に、満鮮修学旅行とあるが、三池中学四年生の春から説きおこされ、二度にわたる応召での満州、ソ連国境、ノモンハン事件体験から敗戦まで、従軍スケッチをふくめての貴重な体験記である。

木村さんはスケッチについて「特別な絵の教育を受けていない私が、昭和19年から21年まで、寸暇をみつけて描いたものである。」「背のうにしのばせた、わら半紙にとぼしい画材で描いたスケッチは、中国から引揚げるとき、規則では没収」ものを、後生大事に体にしのばせて帰国

した」と述べられている。このスケッチが記憶の掘りおこしに役立ったとのことだが、その精密な描写に私は感服させられる。

木村さんのこの一冊を手にしたとき、とっさに思いうかべたのは、半藤一利氏の「昭和史」（平凡社刊）であった。「満州国は日本を「栄光ある孤立」に導いた」といった章と照合して読めば、陸軍の派閥争いから始まる関東軍の野望に狩りだされた兵卒の運命が木村さんのこの自分史によって証言されるように思われてくる。木村さんのこの兵卒体験記を半藤さんが読まれたら、どのような感想をもたれるか、お尋ねもしてみたいものだと私は考える。

この一冊は、われらが「自分史図書館」の貴重な収蔵本であると記しておきたい。そして野尻さんにも感謝申します。

編集掌記

▽自分史図書館だより「Y A」も発刊以来二年目、14号を数える。今年、ときに読者の声も紹介したい。▽県詩人会代表のA・K先生にお会いした折、「Y A」はよく頑張っていますね。ところで資金は？」の問いに、協力者東さんの存在を語る。「そんな文化活動の推進者がいられるとはー『心も金で買える』というホリエモンみたいな人間も出る八女にはねえ」と妙な話になったが、八女は本来、坂本繁二郎画伯はじめ、画家多彩、文学関係も渡辺啓助先生の薫陶で、伝記作家小島直記、中園英助氏ら詩人も多い文化流域であることを述べずにはいられなかった。そこでホリエモンくんにも郷土文化教育を徹底しておくべきであったということになった。

館長

受贈図書紹介 ⑬

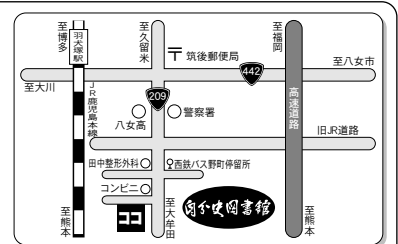
順次紹介していますが受贈日より多少遅れます。あしからずご了承下さい。

- | | | |
|---------------|--------|---------|
| 豆つづ先生がんばる | 瓜生 桂子 | 小 郡 市 |
| すりごま半世紀 | 鬼崎 接世 | 本 市 |
| ストレイ シープ | 山口 博 | 静 岡 県 |
| 母の心そのままに | 秋森 房子 | 宮 崎 県 |
| 句集 白游 | つつみ 眞乃 | 東 京 都 |
| 書いてまた消すごはんの便り | 河村 秀敏 | 鹿 児 島 市 |
| ある兵隊の記録 | 岩元 一夫 | 伊 集 院 町 |
| 悲惨太平洋戦争 | 岩元 一夫 | 伊 集 院 町 |
| 南十字星の下で | 永田 呂邨 | 小 郡 市 |
| 句文集 かたりべ | 永田 呂邨 | 小 郡 市 |

蔵書目録ができました
¥ 160 送料込 (郵便切手可)

自分史図書館

入館無料
開館／午前9時～午後5時30分
休館／日曜、土曜日、祝祭日、年末・年始、その他休館することがあります。予めご確認下さい。
貸し出しはしていません。
インターネットでもご覧になれます。http://www.jibunshitosyokan



〒833-0032 筑後市野町423-8
TEL・FAX 0942-53-8122
西鉄バス野町停留所より徒歩5分